へ 13
3755
10

十九編上
仆題曲亭國史

白縫

十九篇之上

集作者柳下亭種員画工

梅蝶樓國貞

鶴家

門へ13
號3755
巻 10

白縫 十九 上巻 十葉 香蝶 樓豐 國画

元祖慶子（中村富十郎俳号）は七十余にて道成寺の所作事を勤しかは容色荘年と更に愛らぜ伎藝も聊劣らずは都鄙群集て見物せしとぞ豐國叟も齢は古稀に垂とりねがらも画的の艶麗さは弱冠に弥倍まさば挙世愛玩せられども近來稗史の描筆を止められしまて看官方一増翁の画なる策子を喝望とぞ知ゆる僕荒叟師の意に成細画の机上に押戻し十葉を強て求め彼京鹿子の文句に因らめまさん櫻木に鏤むるこゝろとまられば此巻にも傍妻白梅が嫉妬を見せばさ襯染の最中鱗形の組卒が何の恨か有明の撞鐘こそと引上さ中より現出蛇身の丈の廿尋余と云には異て寸楮の間に之を述

安政七卯開端

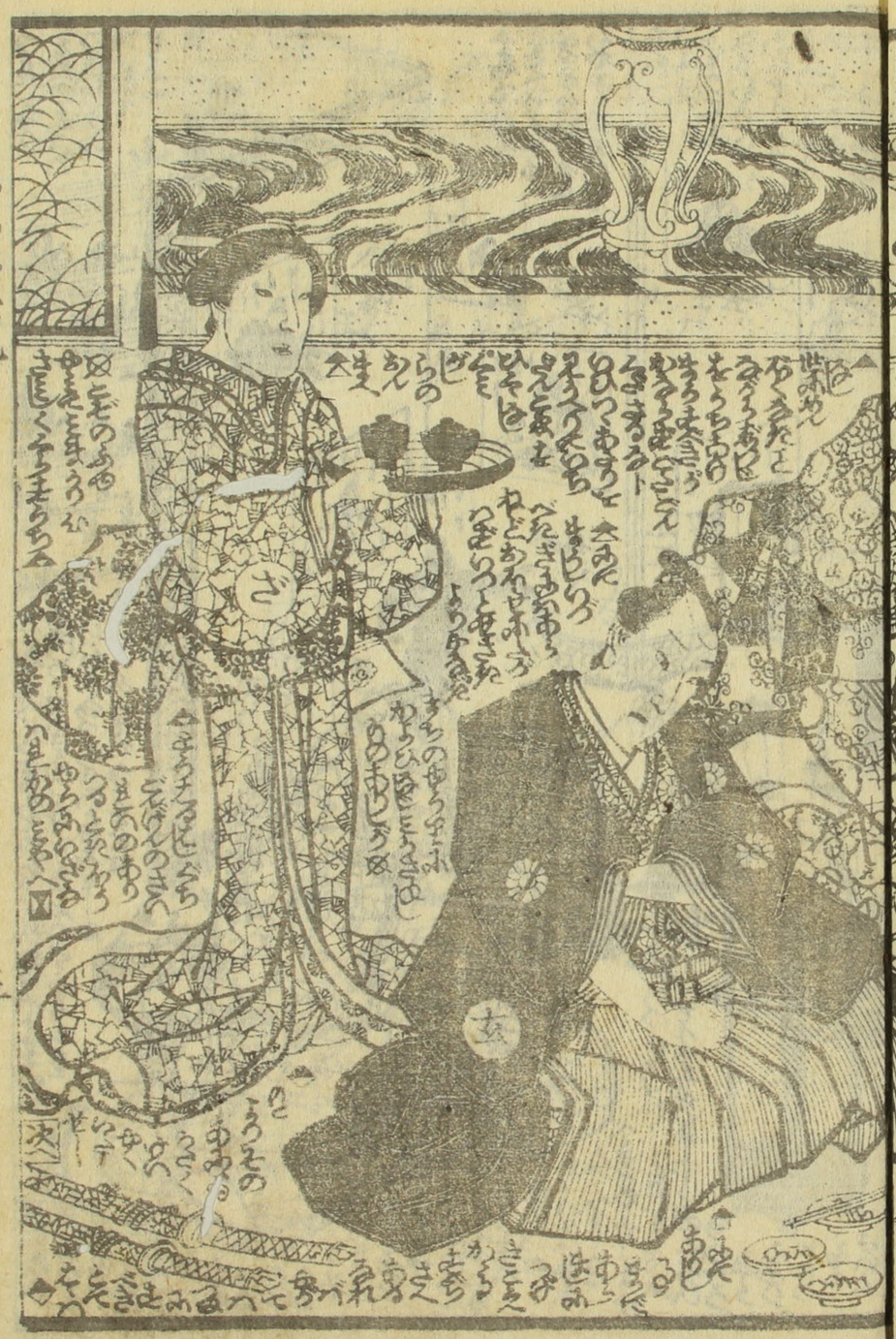
柳下亭種員

肥後國阿蘇ヶ嶽に住
山賊の首領阿修羅丸

若菜孃子

豊國畫

右


ざ
左

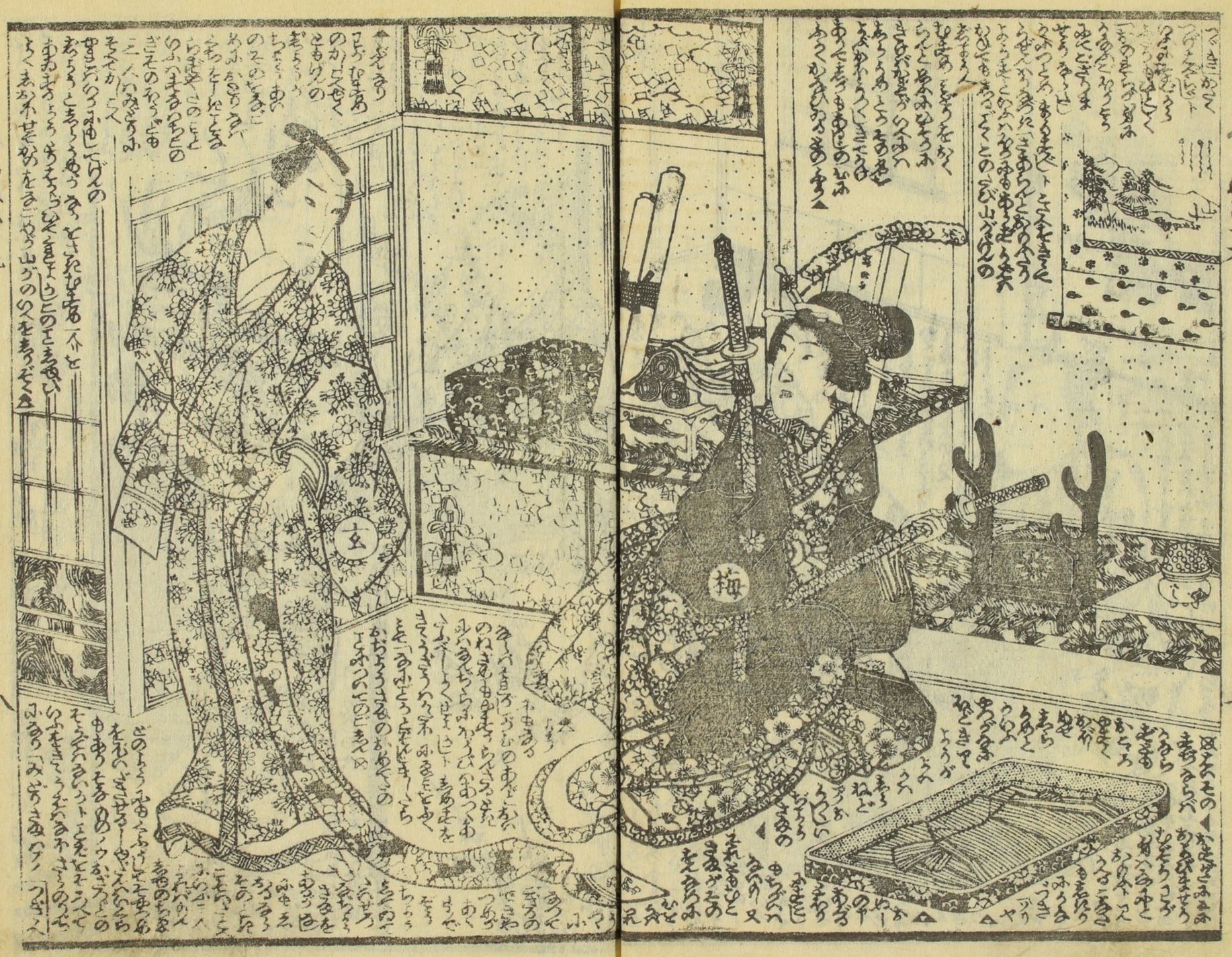
春

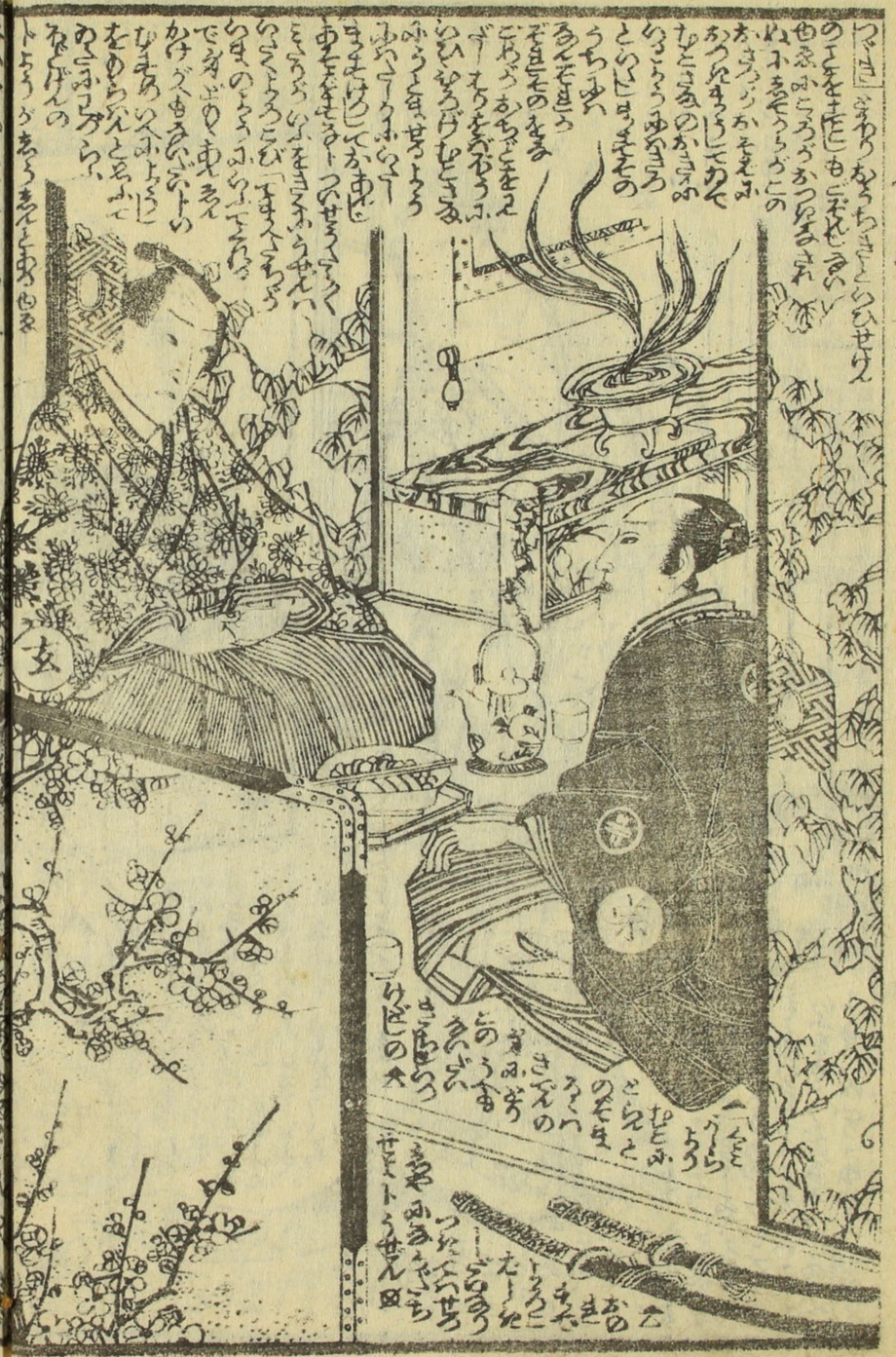
二
右
右

右

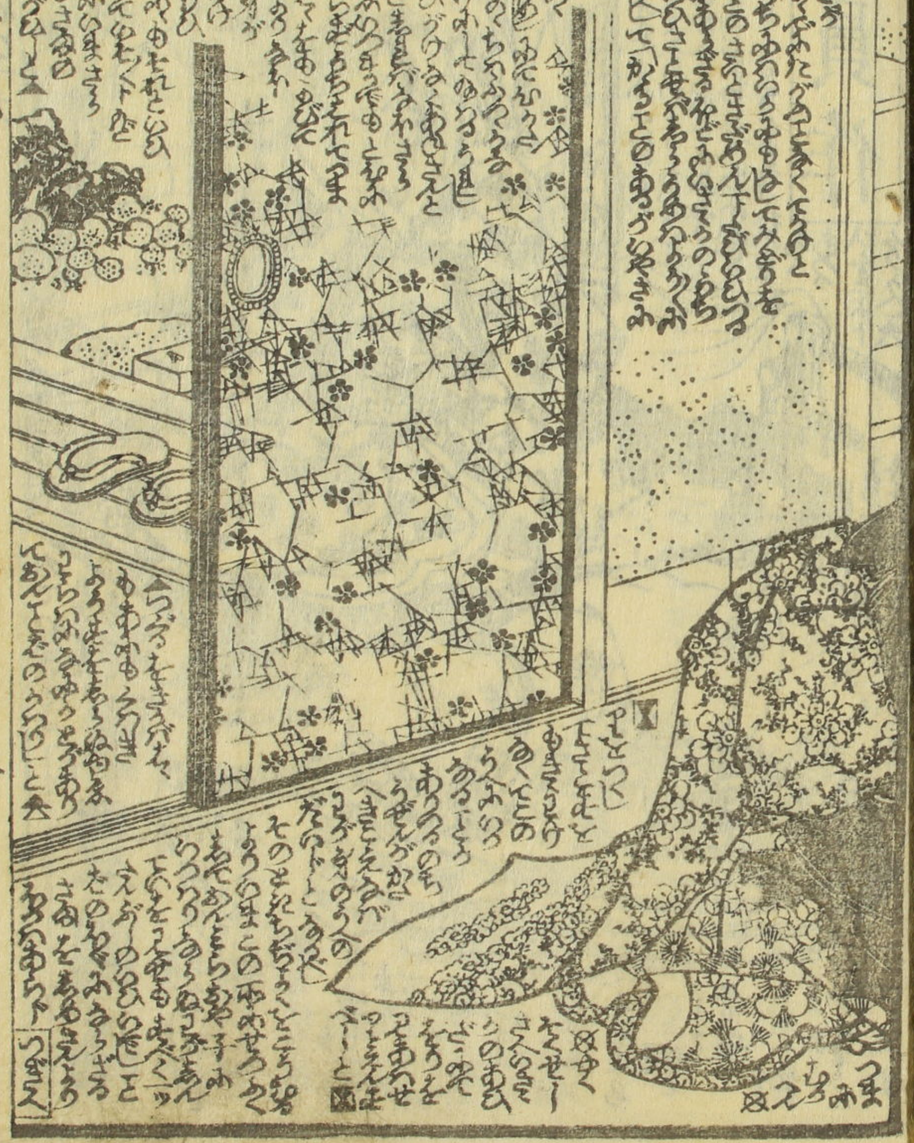
無

有


梅
玄


玄
梅

桜
女



上冊 豊國画

悴國貞追々に取立を蒙り机上繁多の段難有仕合ニ奉存候右ニ付写本遅退此冊子彫刻延引の義を申板元達てしゆひに任せ當編上巻十葉助筆仕候

種員作

安政二年乙卯歳新著標目

假名 休草紙 [illegible] 當卯 [illegible] 柳下亭種員作 雄齋國輝画

[illegible] 作者 [illegible] 後編 [illegible] 泉堂敬白

[illegible] 童謡妙々車 初編 三編 同時出板 柳下亭種員作 [illegible] 蝶樓國貞画

[illegible] 腹稿 [illegible] 因果 [illegible] 板元 紅英堂謹吉

禁方 土壺生肌膏 [illegible] 製薬所 新吉原 [illegible] 壺 [illegible] 柳下 [illegible]

[illegible] 奇功紙 [illegible] 同 [illegible] 同屋 [illegible] 小田原屋 [illegible]

地本草紙問屋 通油町 浅草今戸町 藤岡屋慶治郎 柳下亭

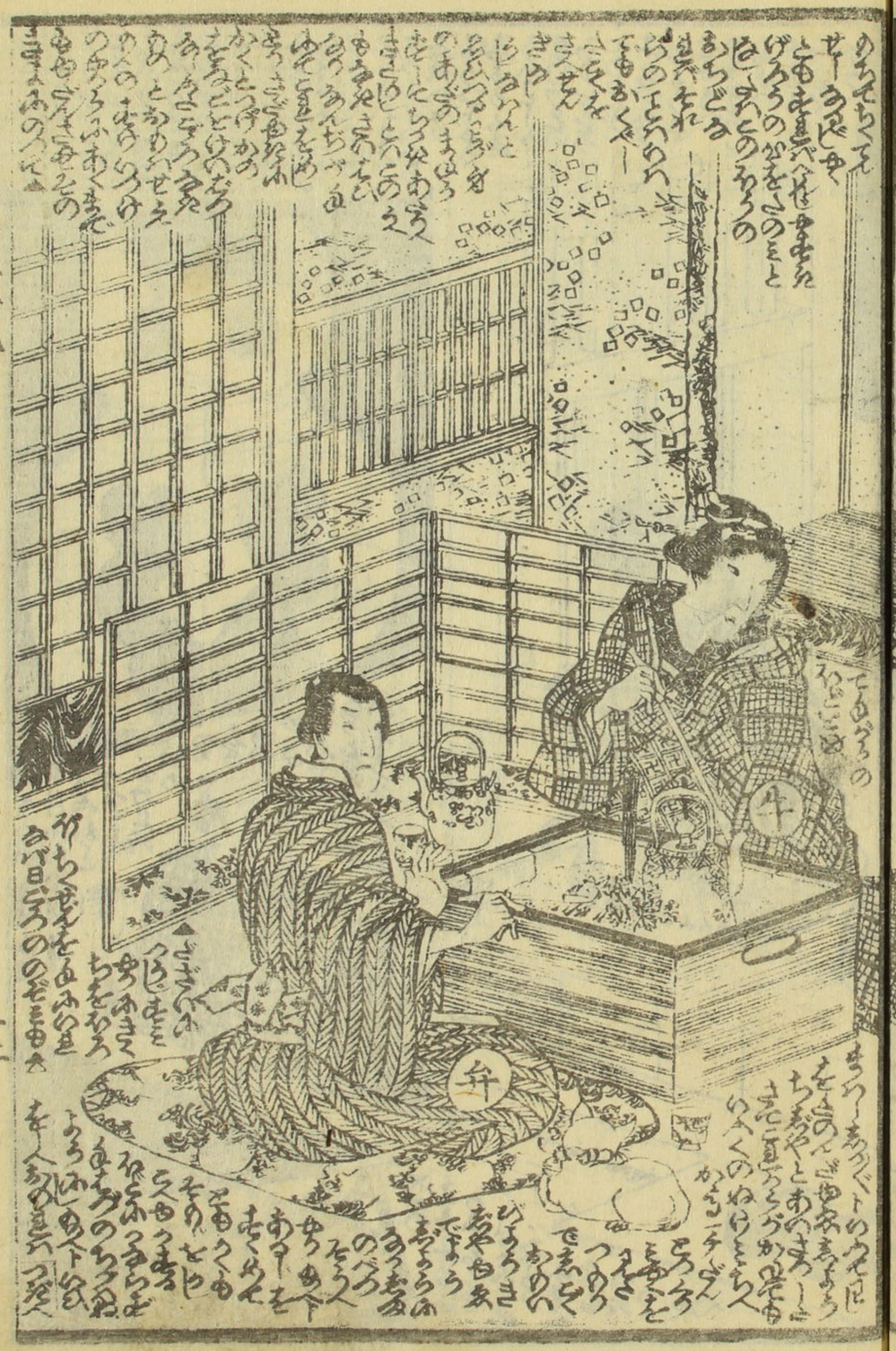
種貞作

國貞画

十九編下

柳下松林

種員作
國貞画


午
弁

次へ

つぎは下夜ふさ夜と
あしぬべんさんさき
りふことの
あれくるやや
うるひーとろへ
まちくうみそろ
らは〳〵くときまりふ
かくろ日ーくよ
まうまへ
かくろあまへ
ーまのをそそ
くりまくめ
あれでまくせて
もあやうさ
なさろふ
そのくそろをまる
まくこまもなく
らなさらあのちぐば
するとちもくまるべつ
ーくまれやもりみものへ
りさんまくそろ
せんまくそろ
まちやあべ
ろーくやろ
ちくなべ
ぎーそれ
のまきを
のとき

白

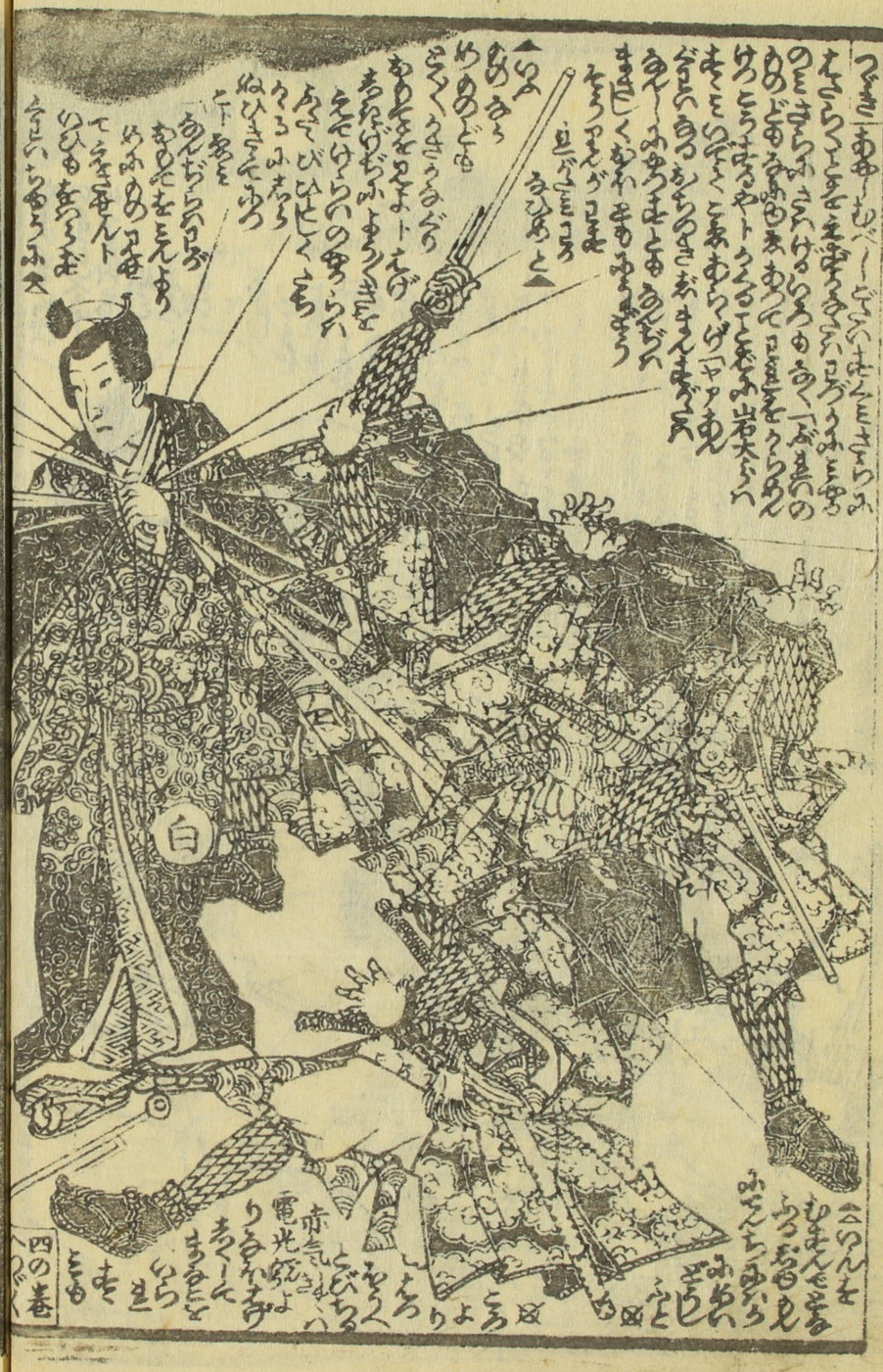
かのまもさくまうへのつくろざるそのうちのりくなえまだ
ぎまくまうへりまくそろ
とろみそまりくまもあ
そこりまりのでまくろまりふ
うとうまりねべへあんまる
そくくひそこの横上まくみふ
ひとくめーまもりそくりや
やらうよりりぐみりとろあまへ

ちひしろーくさちるまりまりのまりのまりの

白

岩

岩


白

此一丁ハ鷲津
七郎島山の
山塞ニ至りて
叔父惟俊ニ
逢圖なり
後の巻ニ
自ラ詳
更あるべし

大築監物忠家主君
龍道寺高朝を諫詫
て肥前を退身する
六十余年以前に在し
支と見玉ふべし

つゞき

ひさしかれども
ふうふのあつふ
一子なけれバまゝづハ
とさらこまをうまひてかゝり
ちつきなふがし

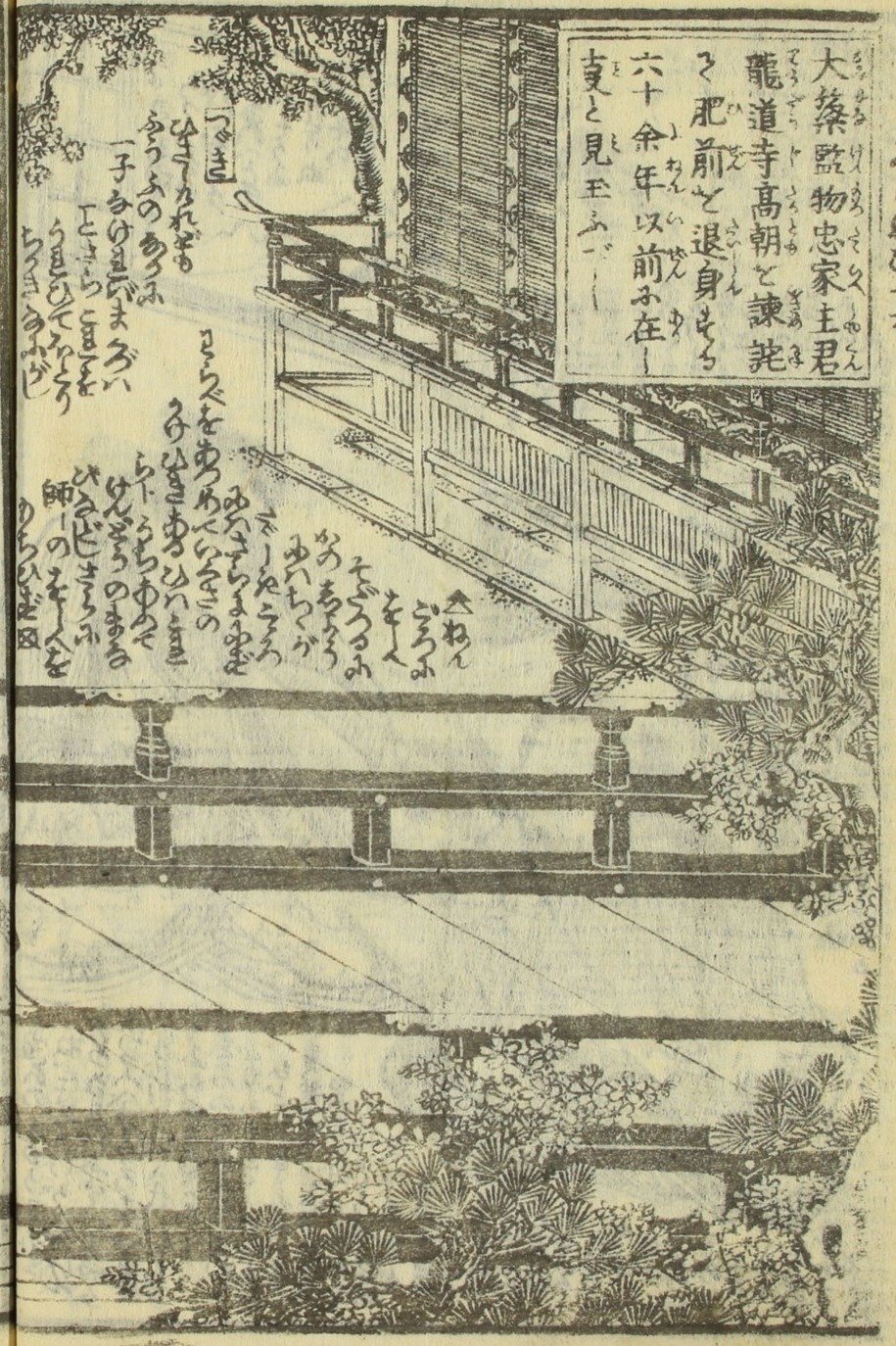
さらべをあつめていさの
みけひきあるひハこま
らトうちあつて
けんどうのまな
びなどさらに
師一のをしへを
あちひぜ

△ねんごろにをしへ
そぐろるに
かのあるよう
ゆいちくが
ゞしゑらふ
ゆいさらまゆぞ
ゆいさらまゆぞ

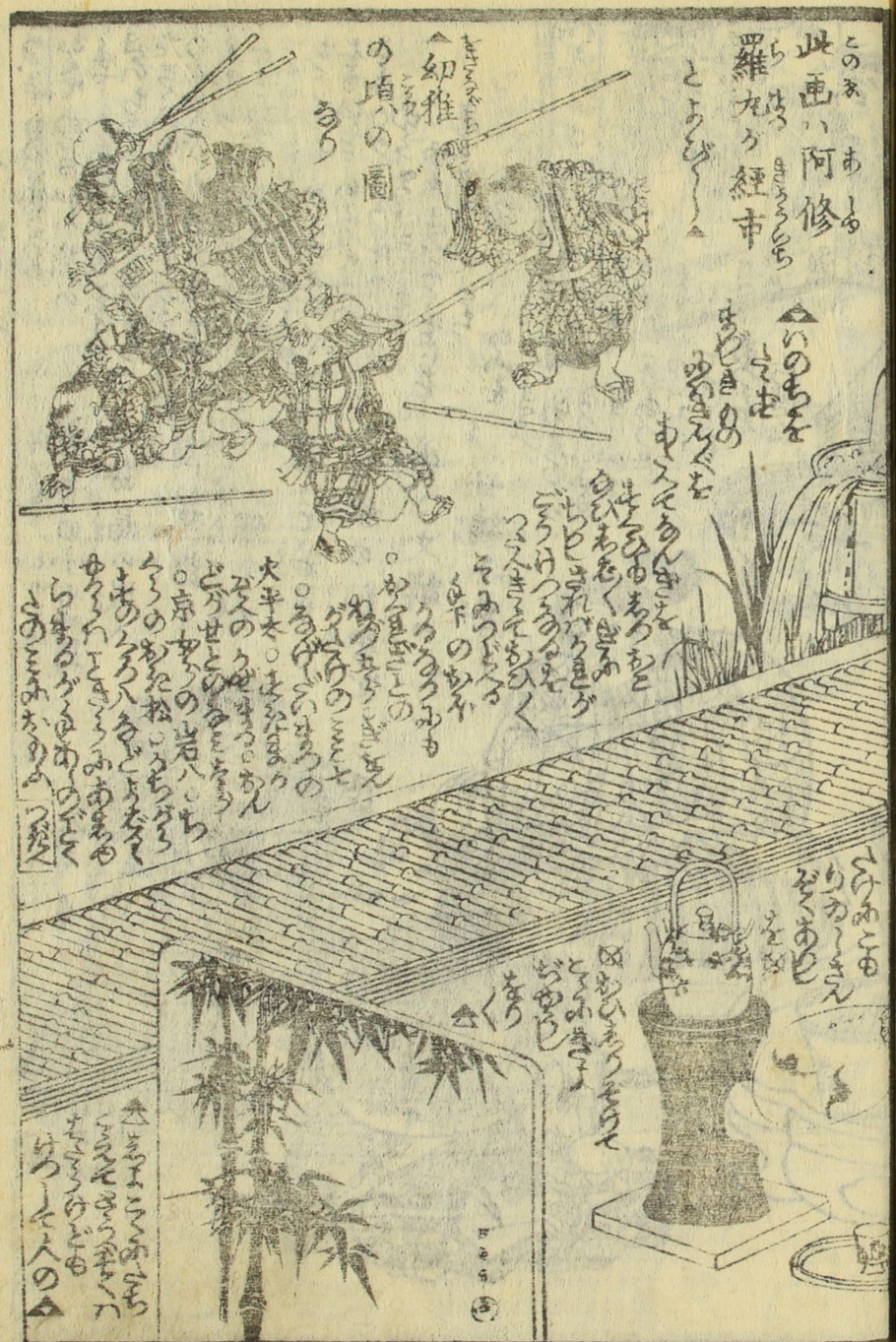
△まうで
なゆとぞ
いろーをさづけ
ゆへといのること
せろなりしがつひ
ゆいのうおやの
あるしゆやぐ
いへいやー五十八
方つまいりそちを
五ツまでとえつるやーに
きごのりぬりそその日
こちてらこおとせーいなんし
ゆてあつもすぶれてもこゆろ
なれバおわりこなるぞ
ふうふいよろこびきよう
市とこまをなづけそろる
うちゆちくたくともうまが
七ツといふとにとこの
けのまゆひゆくりひき
つぐれて世をさりなれバ
ぶなのおよ如来院のおからの
ぢゆうそうのこなし子の
分をあつまこそきよう
市をこうてらゆひたとり
あゆつけにまべたころにて△

でらゆいとまい
げんのあらこ
なる庚申ゆ
尊そのあり
ゆいあき
ゆふゆ
かしこ△

図十三とのふ
そーのおるつひゆい
かのてらをもかけいで
こまよりよろうぬ
このこつのるに
ころあくまで
ふてたゆして
ちつく世にとえ
ぶおゆつも
まこ



つゞく


此画ハ阿修羅丸ガ經市とよびし
幼稚の頃の圖
いのちをてむ
まりしきものゆきたくを
あくてるんぎを
まくひもあつおと
ちひしきれバうきが
ごうけつなるを
つくきてもひく
そのつくる
手のおれ
うるるうみも
かくまごこの
ねづきうぎをん
ぐらのこと七
○るげいのまつの
火平太○まんなまう
ぶんのうせまつ
どうせとのるとなり
○京女の岩八ちら
くうのおたね
まのくろ八るごとうなく
ゆくらいとさくらのあまりも
らまるがくはあのごとく
このこみたりへ
つゞく
さけのこともりかしさん
ぞくあひしを
おひきりそうて
とくのきよ
ぢやひ
まりく
さしまこてのこちらそこ
ちくそうけども
けつして人の

まりさ
いつとろ
このあそが
忠
葛
つゞく
ぞしてまつ
あくをきりあ
あくぞくながら
ひとのうこゝの
うつぐれ
きゃまうあつ
あまりら丸と名を
よび久あまさの
ぞくの
そうりよう
と

つぎ

ものぐるゐ

かくて ある日おかれぜいの
ま下をあつめ 其もあんの
きいちゆうえてこゝきのこゝめ
たこくみのぞろうちがらを
のくろ八がりぐきさつてあ
まゆらまるのまへは
こちらのぞつぐるよう「うは
てかうしらのきしのみまるせ
ちくせんえめよのふぶぐ
をもひをこめぐりそうの
をみ ごがよろくもも
あらまりきてえし
ゆみきろそくそれを
きらせんとてこち
えのせひト のふを

まくて
あまゆら
まるのへさも
いましげみ
うるづき
つ「そハ
でうしこう
あつえれ

つぎへ

新泰の小婁羅
勝烏の黒八
阿蘇嶽の
山塞に立
帰りて若菜
姫の動勢を
告る文解ハ
廿編に委し

種員作

國貞画

安政二年乙卯歳新鐫書目録

白縫物語

自第十八編　柳下亭種員作
至二十五編　梅蝶樓國貞画

當寅閏七月より來卯正月迄に黒相違出板

十八編ハ紀伊国加田浦の漁夫朝助が往時のものゝ[illegible]白梅右脇が邪悪の工に陷下の巻ハ十七編の口画にて[illegible]一個の立者二笠山伊達五郎[illegible]西洲右膳が女翠山療金之丞を恐怖[illegible]終り十九編ハ妾白梅右膳が邪悪の工に陷金之丞が為に非命に果るの話二十編ハ二笠山が[illegible]

廿一編ハ伊達五郎母と妹の仇討に山田河内の蛍狩の夜五個殺害[illegible]面白花[illegible]趣向[illegible]廿二編[illegible]廿三編[illegible]廿四編ハ青柳春之助[illegible]伊達五郎[illegible]救ふより攝州須戸の駅亭に鳥山豊後助が必死の尼難龍川小文治二笠山伊達五郎怪力に雌雄を争ふ物語ハ廿五編の巻末[illegible]説下[illegible]廿六編より以下のこと余紙あらはれバ[illegible]出板毎に[illegible]願上奉るなり

作者　種員伏稟

地本草紙問屋　通油町　淺草今戸町　藤岡屋慶次郎　柳下亭

廿編上

白縫譚

白縫

第貳十篇上集

柳下亭種員作

梅蝶樓國貞畫

松林堂鐫主

先達に發兌せる此書の巻尾目録にも記すごとく十八編より廿五編迄は山鹿玄之丞白梅等が事を説んと慨畧は草稿をもしたりしに莫逆友の告て曰忠臣藏十一段の内四段目より以下八段目は除て五段目六段目の寂莫なるは彼淨瑠璃中第一の魁役由良之助の出ぬ場内忍とぞ足下が著述の不知火も一部の主とも唱べき若菜姫が暫出ぞれ看官の不奥となるべし其了簡して綴さまへ斯許の長物語此後編は弥肝要必ともに怠慢なくと勘平意味で教尓さまざまと兼諾ぐ合点々々草紙満尾するまでは努にも無不的是合巻と遽に條を案替遥の末にと思ひつる阿蘇嶽の阿修羅丸を野猪より先へ逸散にいざし猶三笠山伊達五郎が山田河内に五個屠戮の夜銕炮雨の震動雷電必死を青柳春之助に救はるゝこの場をも

伊勢泰
寻賀吉
実は亀谷
多門
之助
光行
傾城綾織
鳥山秋作輝忠

女馬士囲擦
實ハ若菜姫
若菜姫の
繡像

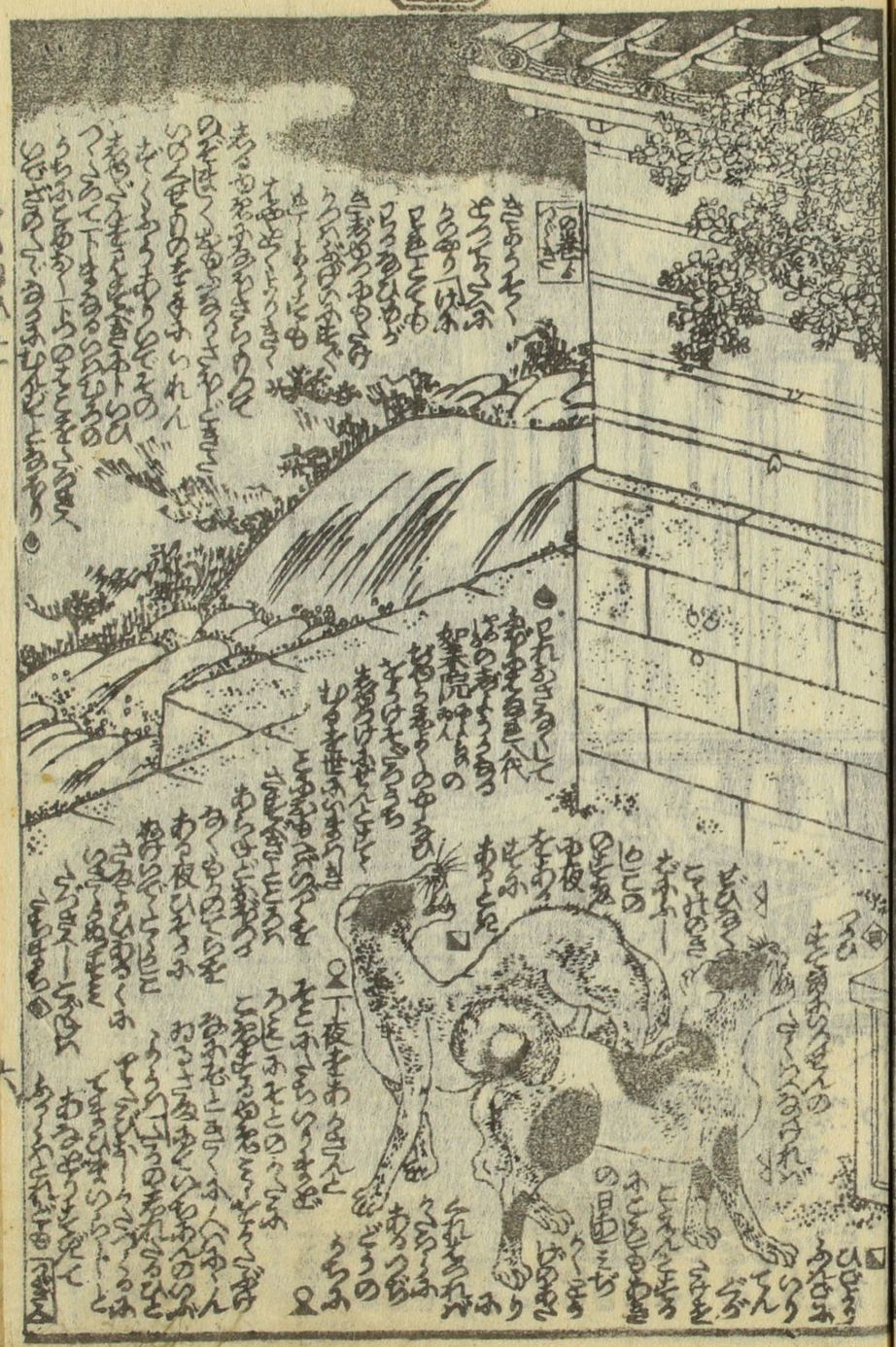
五拾両の黄金を入たる財布の縞の横竪に雑交て編づきたくせりと
胸裏を明白言上ハ此後とても拙作意な趣向を雲顧君子より御
助言を乞ん為願ハ御贔屓深編笠原千嵜が訪来ゆうに在宿なる
哉と見苦き茅屋迄光臨なくとも書房へ告まゐる尊意次第即時
案變愚存と御披露するさへ益友が譬諭にひける六段目の山崎
ならで是ハ今戸ハ八幡宮の真向へ住居を移しさく間あれ頃
にてなりけり

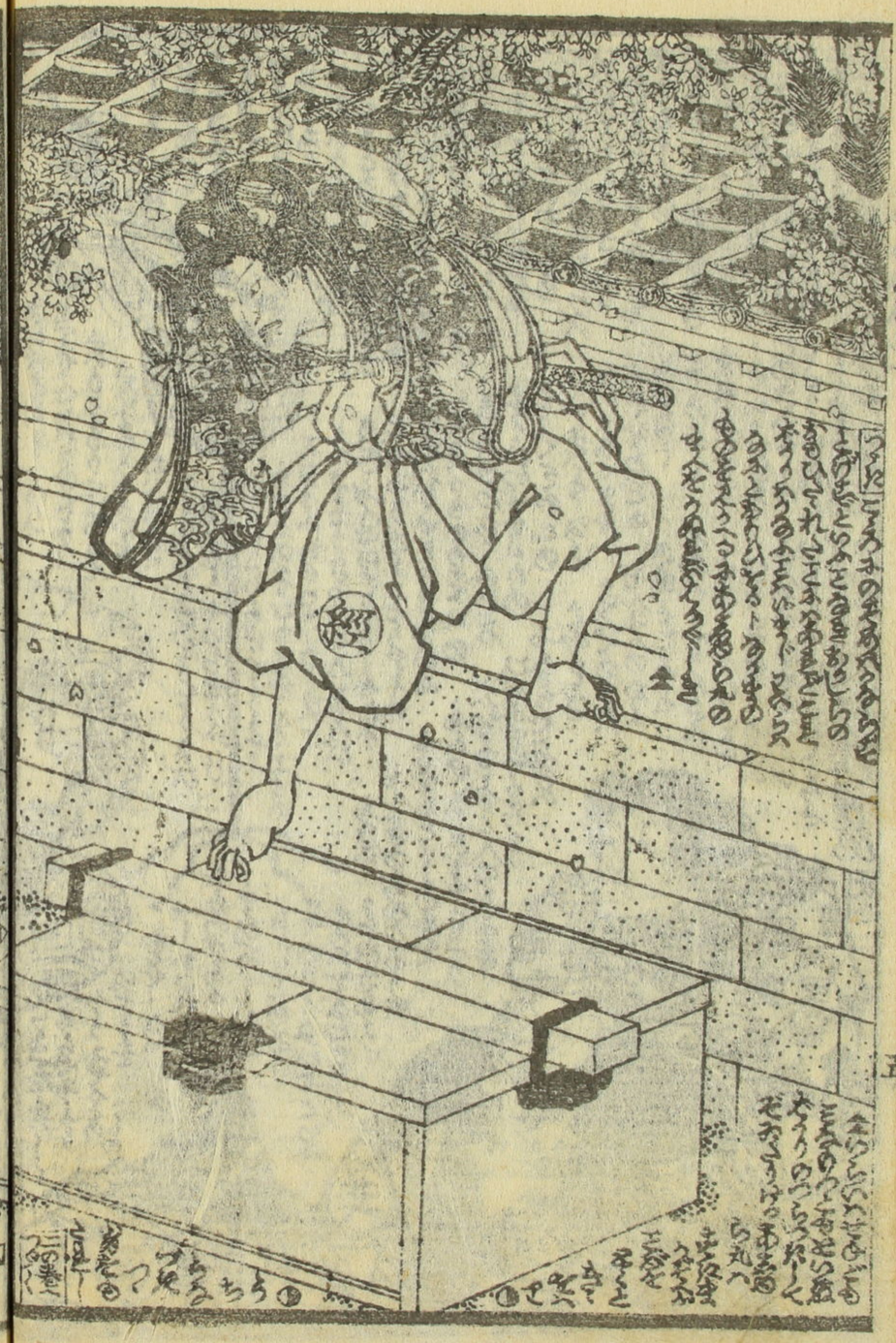
安政甲寅仲冬成稿
同　乙卯初春發販

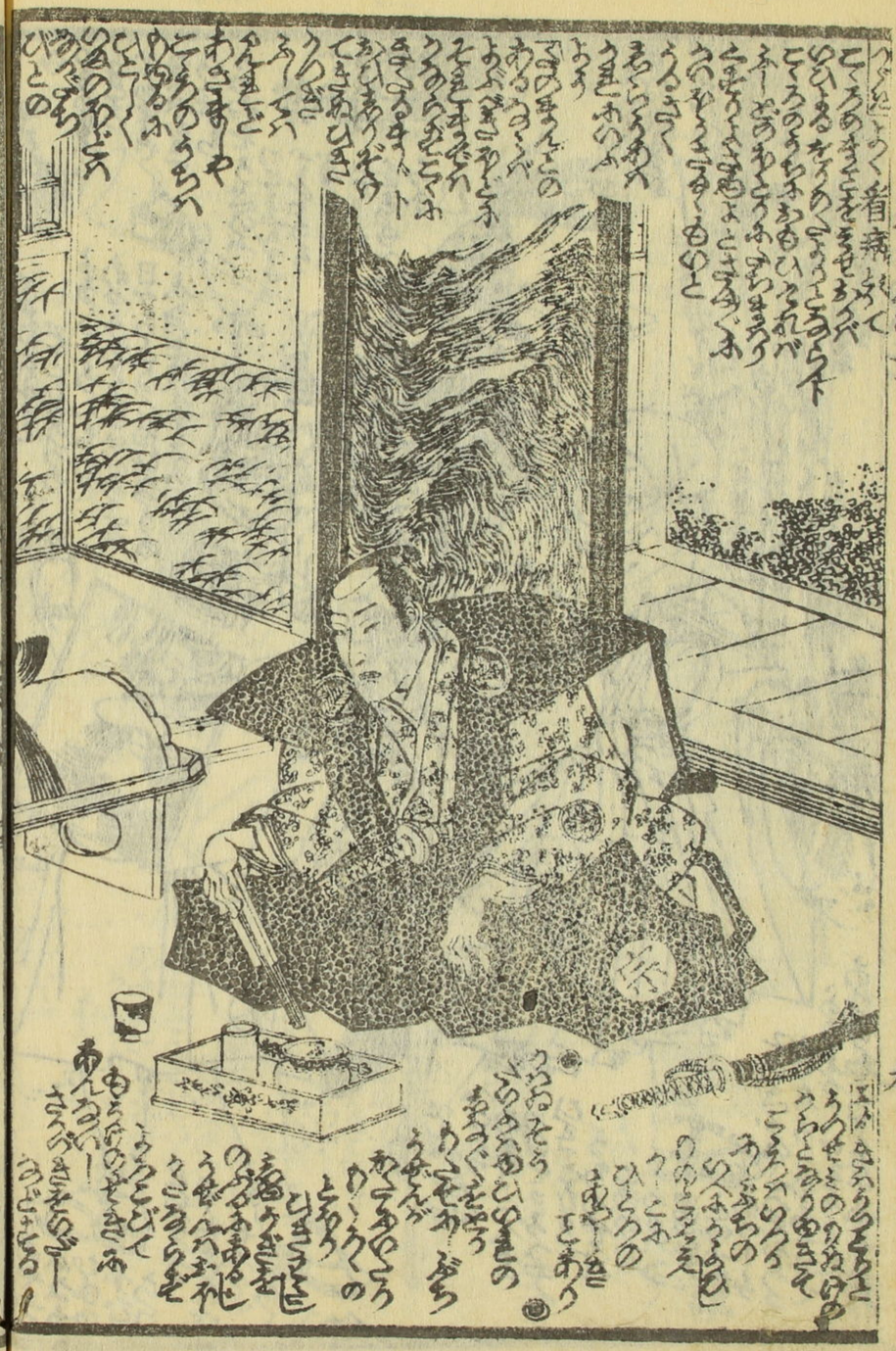
柳下亭種員記

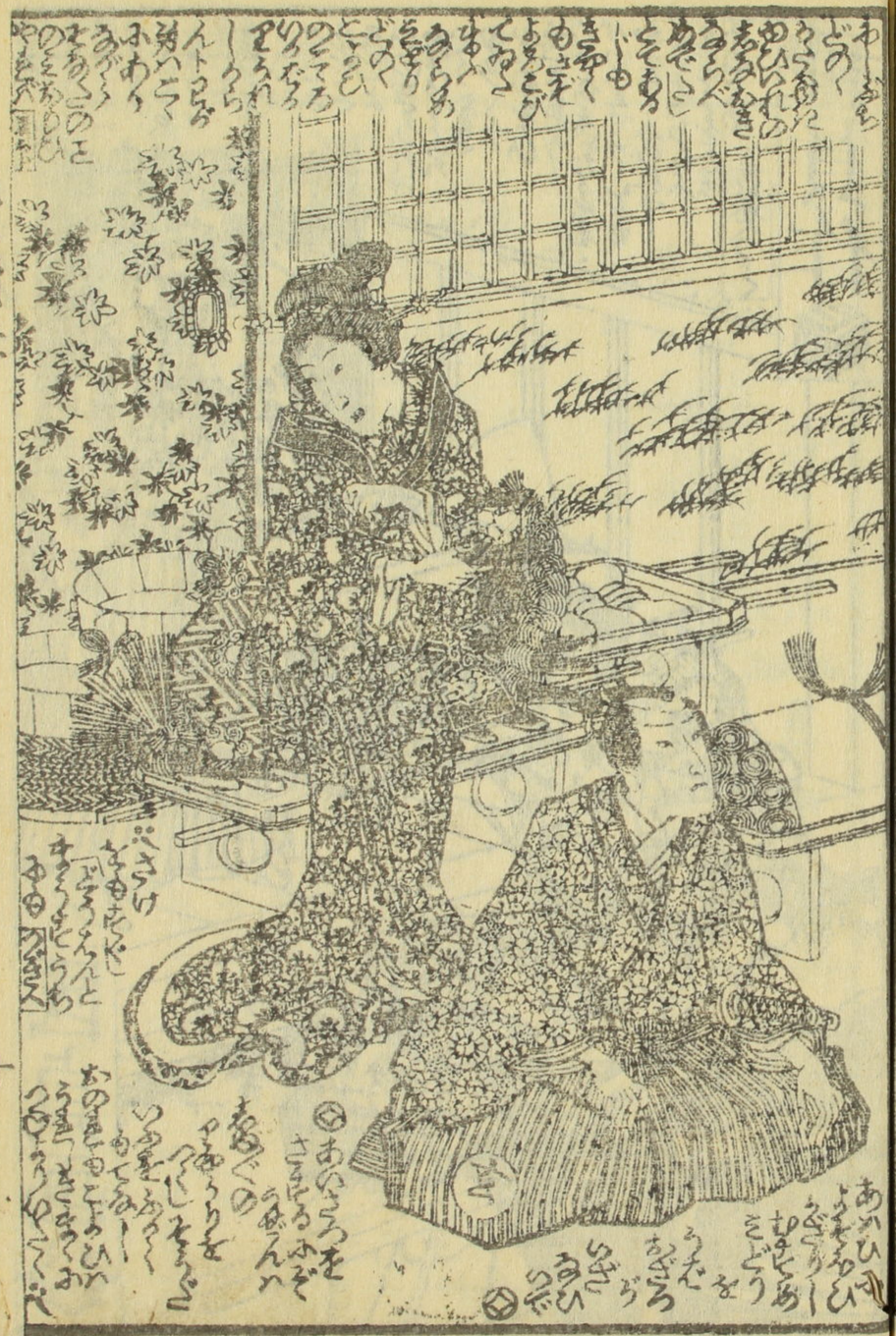
于楳素軒南窗試筆

宮城魚









種員作

三の巻へつづく

國貞画

安政二年乙卯歳新著標目

假名
妙古

一 休草紙 八九

富卯 戌初春出板 柳下亭種員作 雄齋國輝画

[illegible]

板元 甘泉堂敬白

[illegible]

童謡妙々車 三 初編 同時出板 柳下亭種員作 奎蝶樓國貞画

[illegible]

板元 紅英堂謹言

[illegible]

[illegible]

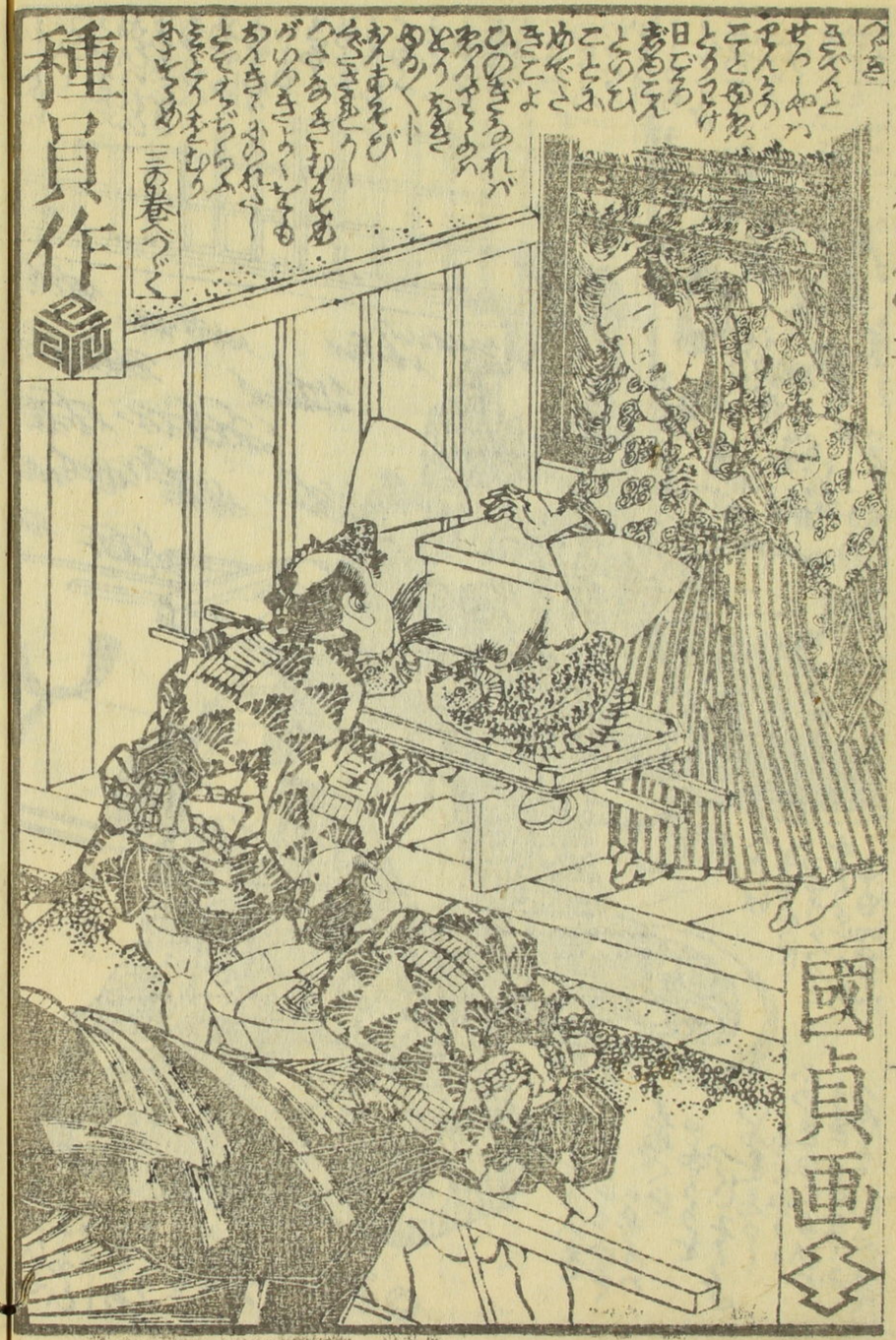
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

地本草紙問屋 通油町 浅草今戸町 藤岡屋慶治郎 柳下亭



種員作
國貞画

廿編下

柳下松林

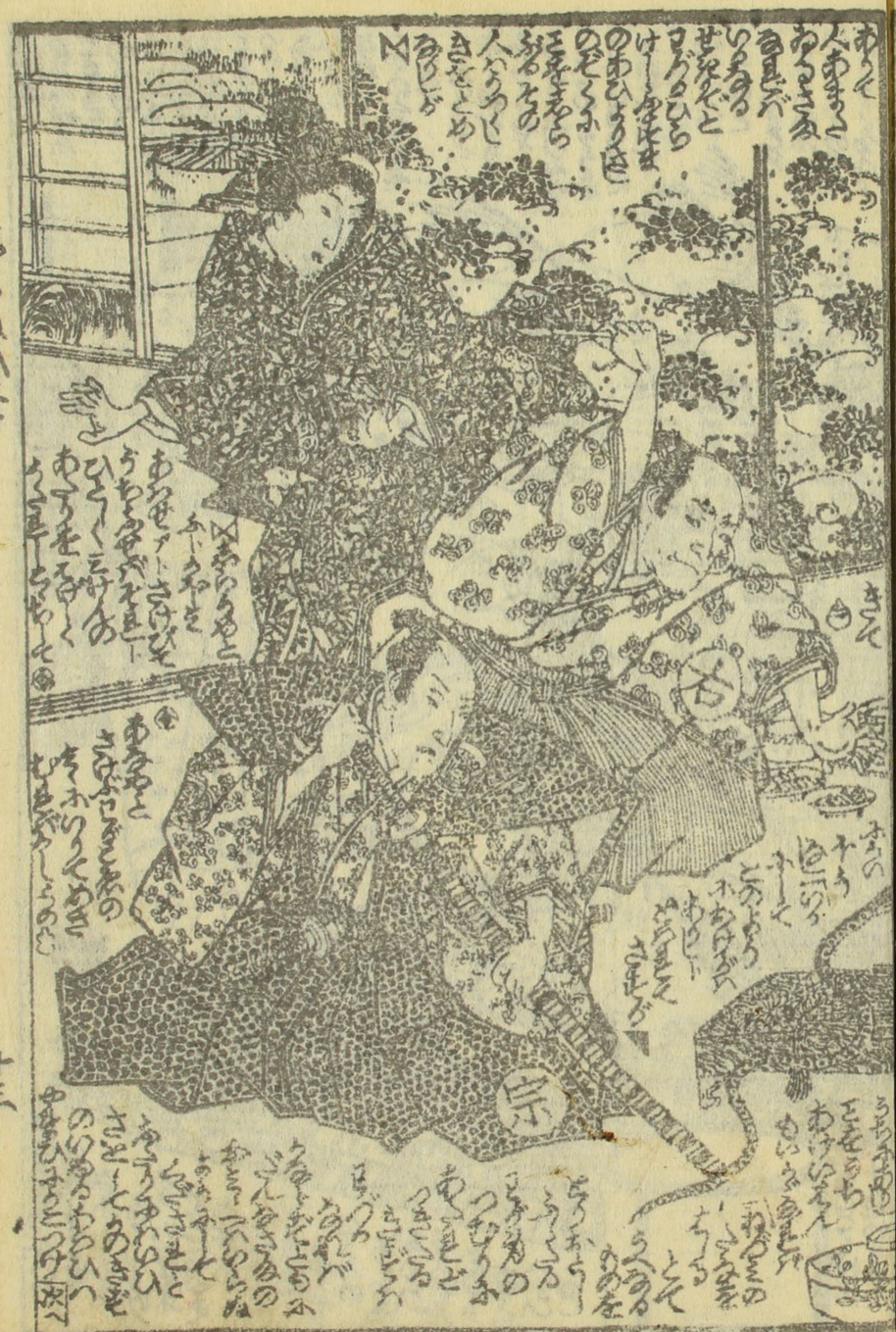
白縫譚

種員作

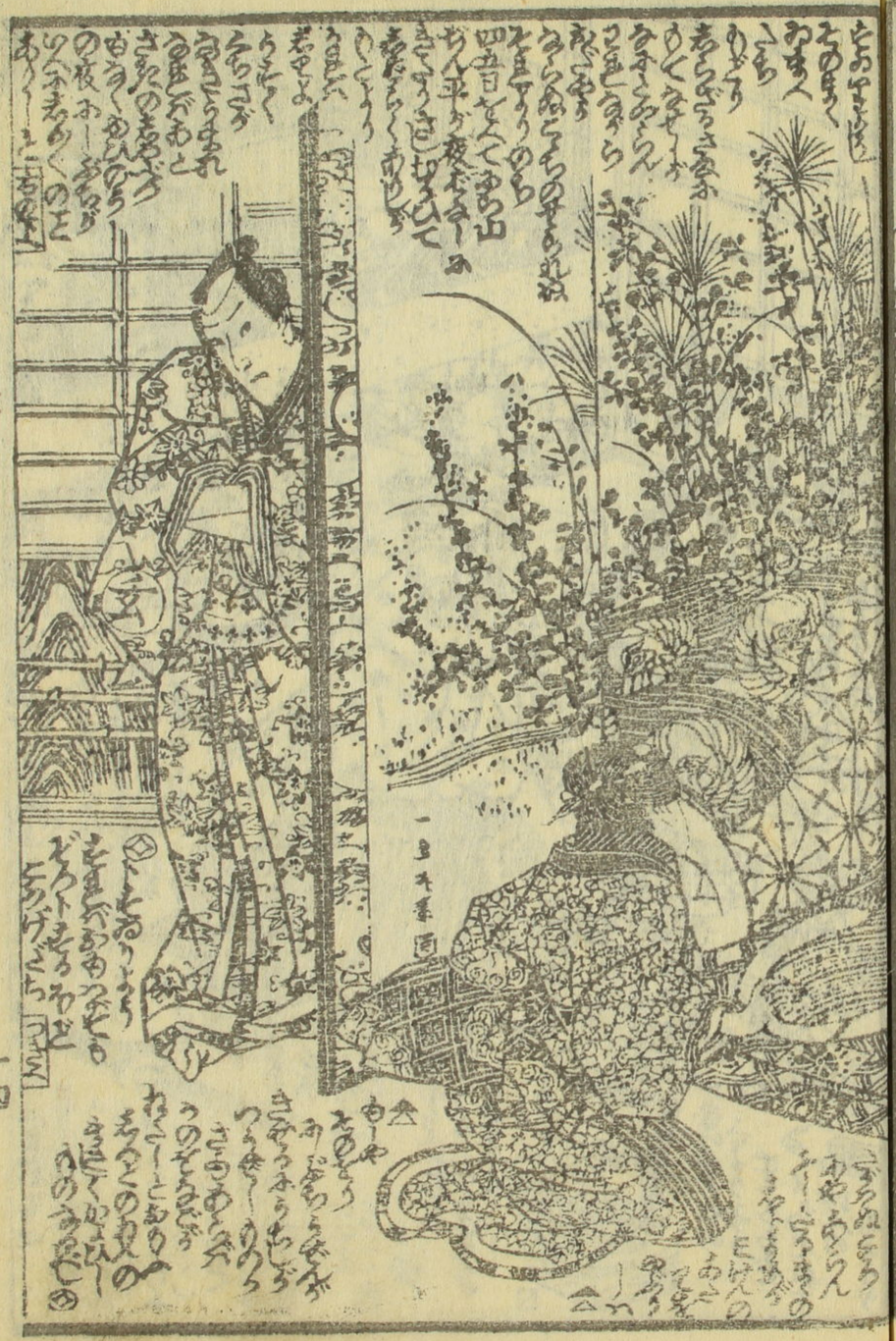
國貞画

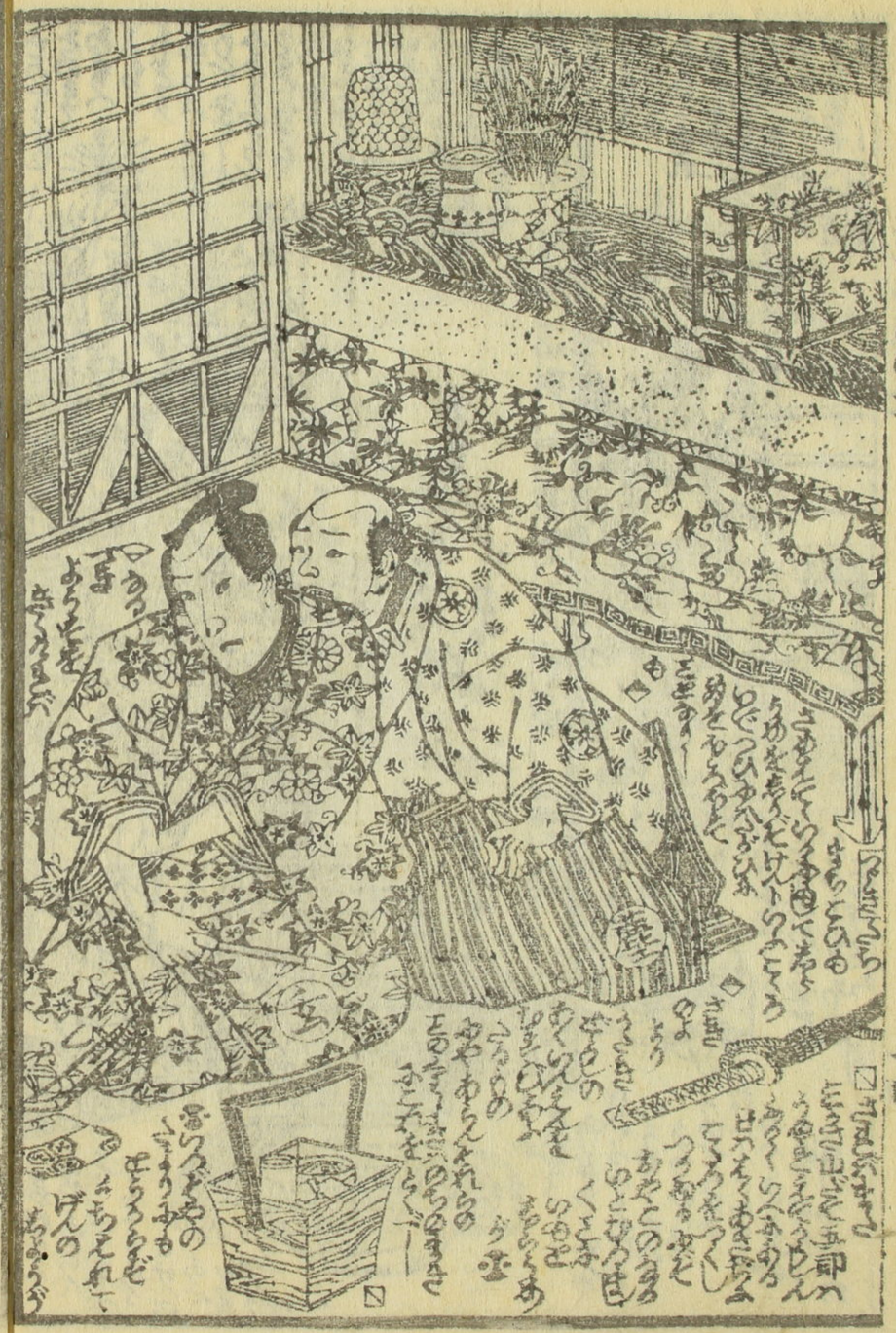
廿編下冊

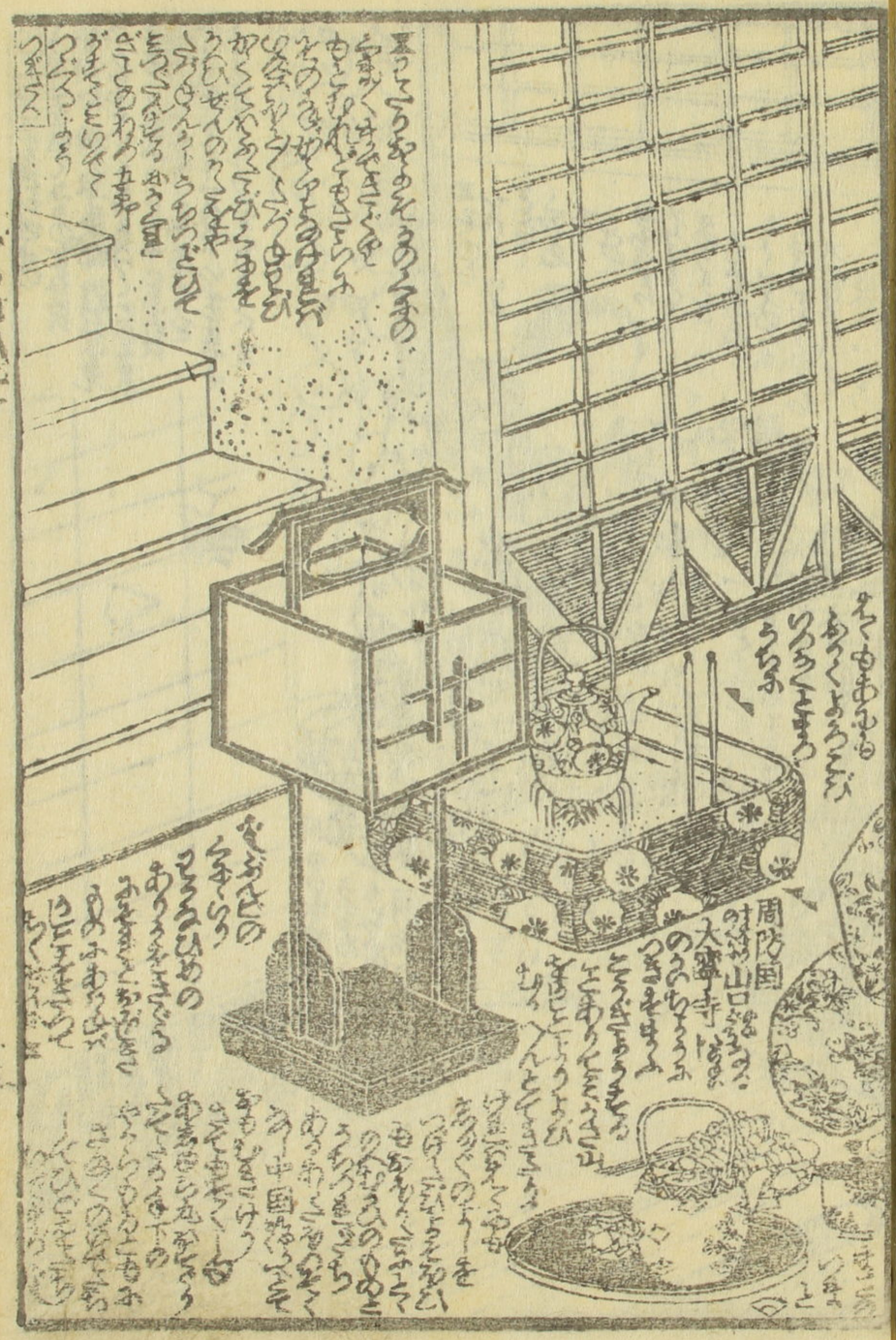
柳下文庫

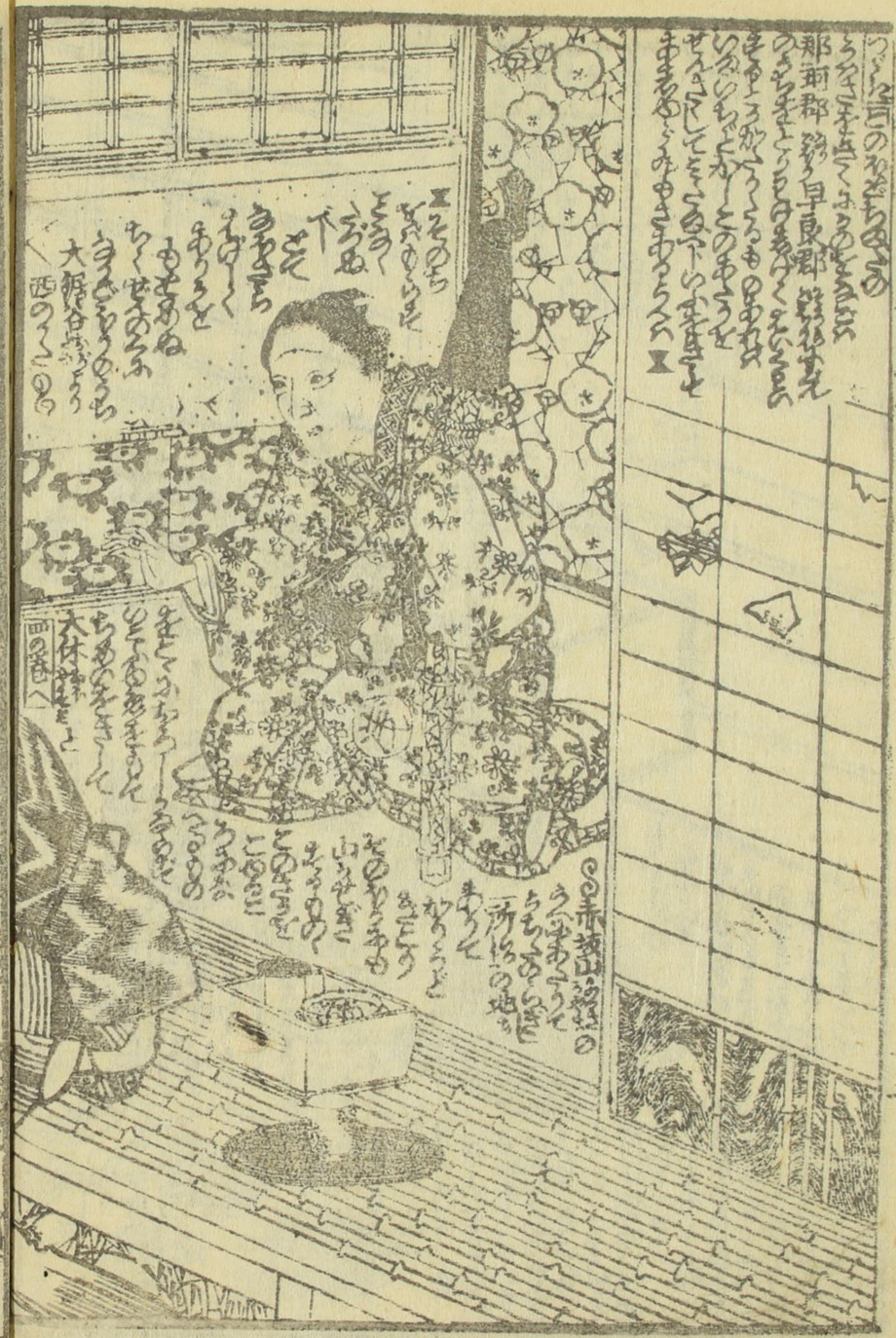


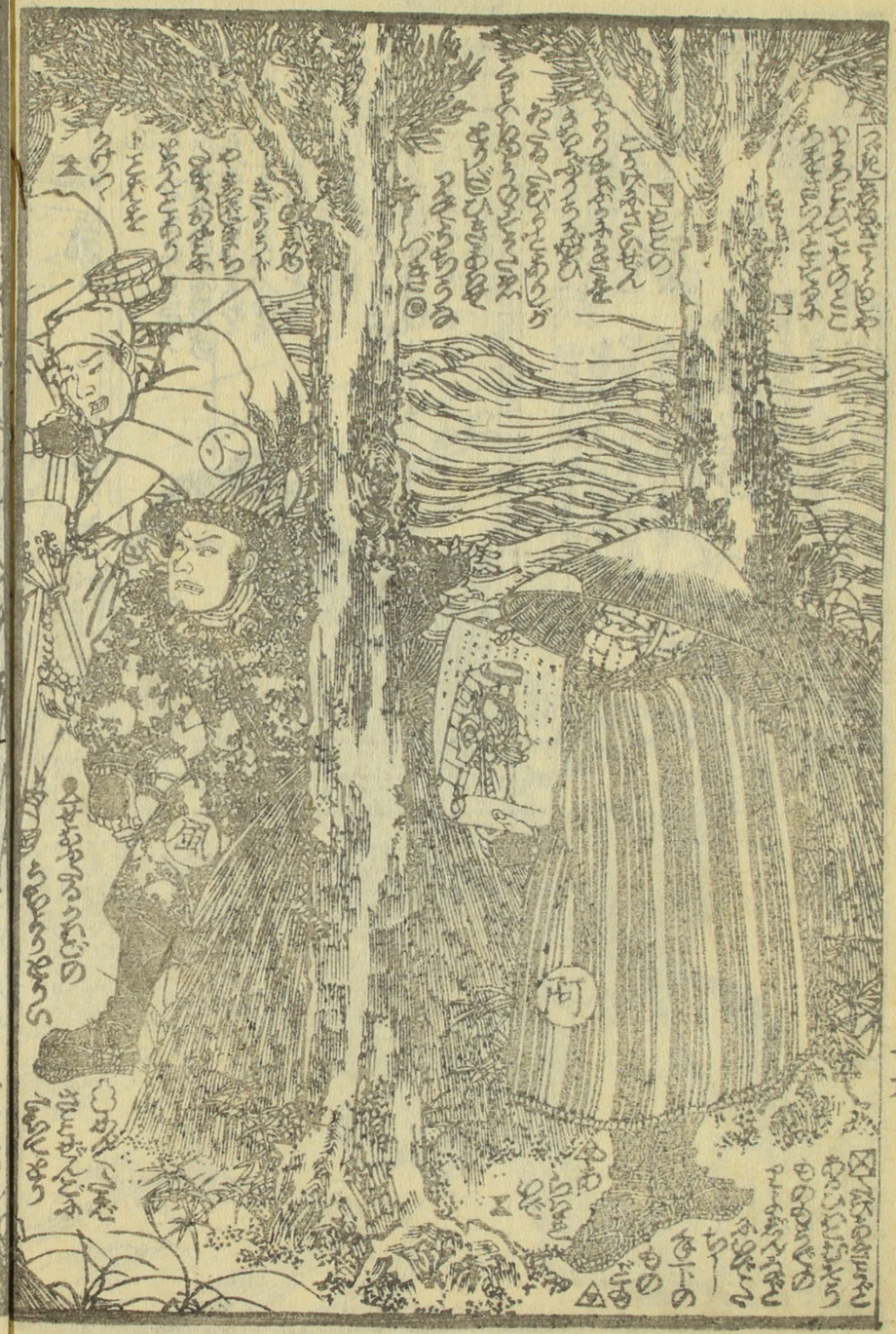
愚
梅









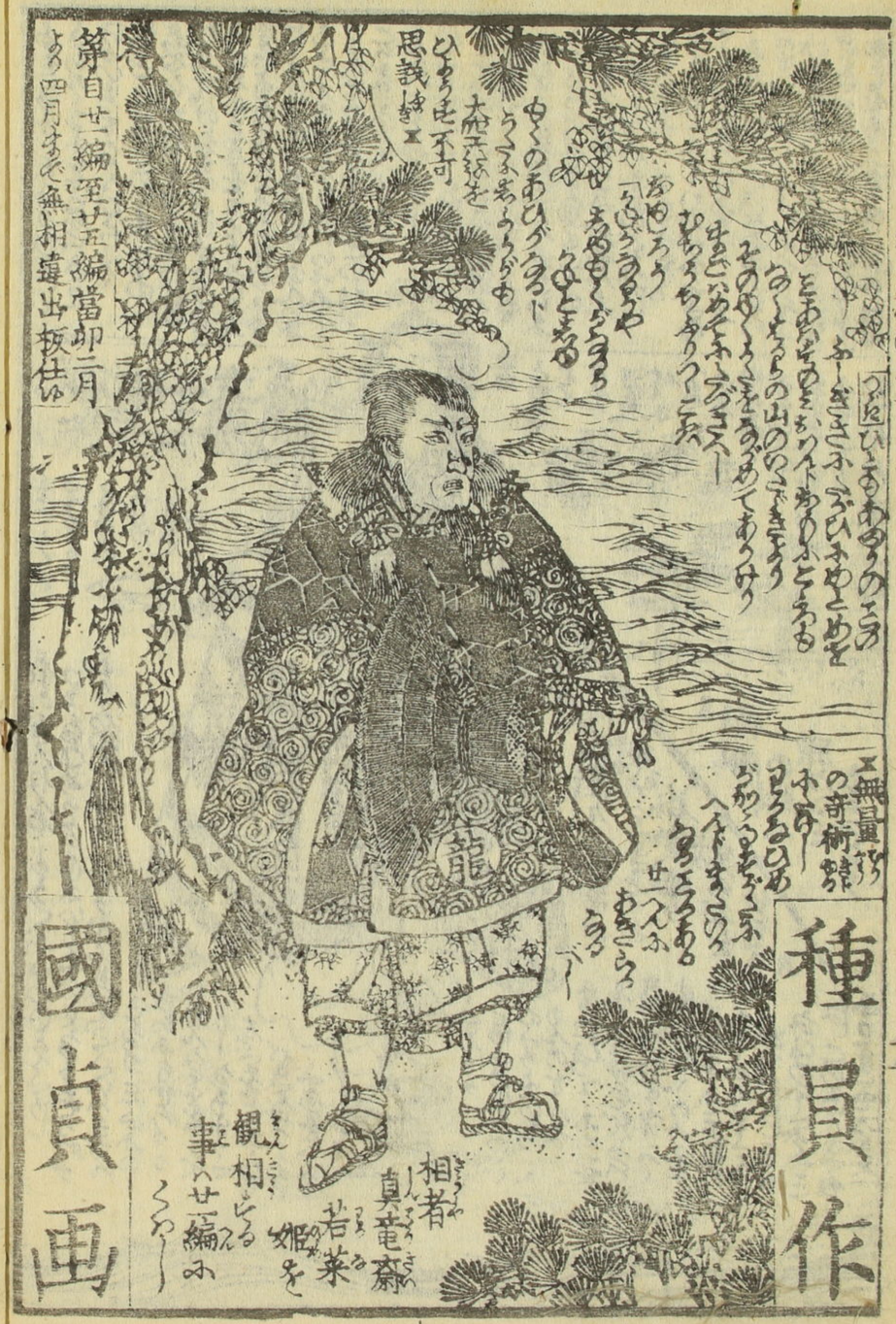


中
風
向
若
火
根

風
沖
火
岩
箕

河
根

阿修羅丸が葉若菜姫の奇術に呆る
此ほか阿修羅丸が系図の巻をうばひさらんと若菜姫が実の名をあかさるゝは後編の機に明かすべし



種員作

國貞画

安政二年乙卯歳新鐫書目録

白縫物語

自第十八編　柳下亭種員作
至二十五編　梅蝶樓國貞画

富寅閏七月より來卯正月迄ニ無相違出板

十八編ハ紀伊国加田浦の漢夫潮助が往時のものがたりに白梅亡姉花衣が身の上を知りて下の巻ハ十七編の口画にて御覧に入し此而子に一個の五者三笠山伊達五郎がこと知れ下の巻ハ西濃右膳が女翠山麻玄之丞を慕慰なるとの数り十九編ハ妾白梅右膳が邪悪の工に陥り玄之丞が為に非命に果つの話二十編ハ三笠山が開方喧嘩の条より母親浅茅が成行のこと廿一編ハ伊達五郎母と妹の仇討に山田河内の蛍狩の夜五個殺害にかゝるとの面白く花やかなる趣向これらハ廿二編廿三編ハ青柳春之助女智を選ばれ伊達五郎ハ救ふより攝州須戸の駅亭に鳥山豊後助が必外の尼難龍川小文治三笠山伊達五郎怪力に雌雄を争ふ物語ハ廿五編の巻末まで説下廿六編より以下のこと余紙あらはれバ此ニ出板毎に何ぞとめ此程を願上奉つなり

作者種員伏票

地本草紙問屋　浅草今戸町　通油町　柳下亭　藤岡屋慶次郎

白縫物語二十篇